

臼杵地区藻場・海岸保全活動組織（大分県臼杵市）

● 活動項目

藻場の保全（母藻の設置、食害生物(ウニ)の除去、岩盤清掃、モニタリング）

● 組織の構成

漁業者、大分県漁協臼杵支店（16名）

● 地域の現状・課題

- ・臼杵地区は大分県中南部に位置し、豊後水道に面している。
- ・リアス式の入り組んだ海岸線が続いているため、多種多様な水産資源に恵まれ、多様な漁業が営まれている。
- ・しかし、近年藻場の衰退が見られ、磯根資源であるアワビやサザエ、ナマコ、ウニ、クロメが減少している。
- ・藻場衰退の主な原因として、ガンガゼの過剰な摂食が課題となっており、その対策が求められている。



藻場が減少した海底

● 活動の内容

- ・藻場の回復のため平成28年度に組織を設立し、以下の活動を行っている。
- ・母藻の設置：スポアバッグ方式により、クロメ母藻を設置している。
- ・食害生物除去：ガンガゼを対象とし、素潜りにより水中で潰している。
- ・岩盤清掃：素潜りにより、付着生物を剥離・回収し、陸上で処理している。



クロメ母藻の設置



ガンガゼの除去



岩盤清掃



モニタリング

● 活動の効果

- ・活動開始から2年程度と日が浅く、明確な成果がまだ現れていないが、定期モニタリングによって、海藻の繁茂区域とガンガゼが多い磯焼け区域をゾーニングすることができた。
- ・今後も、ガンガゼ除去などの活動を継続することで、藻場の回復を目指す。
- ・一部で食植生魚類の食害と思われる痕が見られており、状況に応じて魚類の除去対策の検討も必要である。



確認できたクロメの密生区とスポアバッグ